



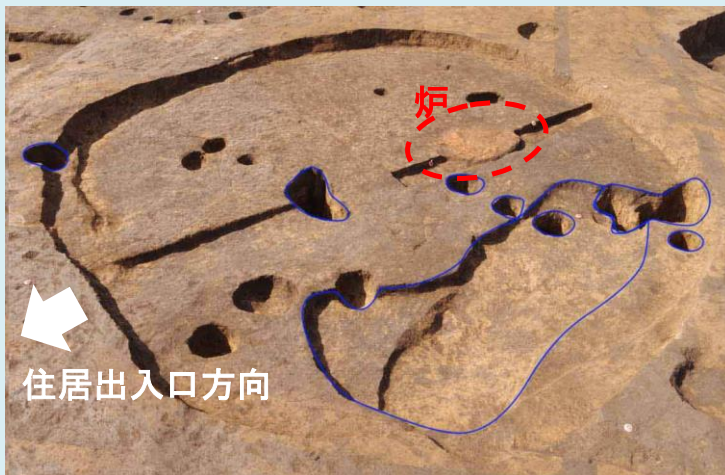
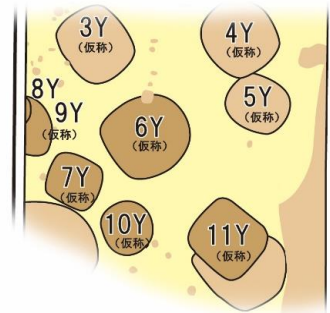
氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

作成日：2023.11.24
富士見市教育委員会
生涯学習課 文化財G

— ⑥ 令和5年10月30日～11月3日 —

10月30日～11月第1週にかかる期間には、調査区の北寄り～中央付近に位置する弥生時代住居跡、仮称6Y～11Yの調査を主に行いました。より新しい時代の遺構と重なっていたり、調査区内ではごく一部分しか確認できない住居跡などもありました。

発掘調査においては、このような一目ではっきりとはわからない状態の遺構も見つかりますが、それらも貴重な文化財の1つであり、確認できる範囲の記録をしっかりと残す必要があります。



6Y(仮称)



▲6Y(仮称)の完掘状況
(青線部は、より新しい時代の土坑などの痕跡)

▲6Y(仮称)の検出状況(掘り下げる前の状況)

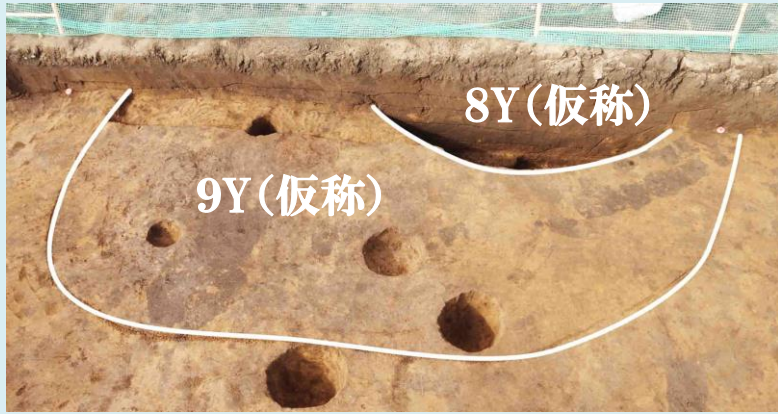
弥生時代の住居跡、6Y(仮称)は、平面形は隅の丸い方形で、一辺が5mほどです。住居跡の中央やや奥で床面がオレンジ色に焼けている部分が、調理などの際に火を焚いていた地床炉の跡です。より新しい時代の遺構(青線で示した部分)と重なり合っています。



7Y(仮称)

弥生時代の住居跡、6Y(仮称)は、平面形は隅の丸い方形で、一辺は3.2mほどと、小ぶりです。住居跡の中央やや奥で床面がオレンジ色に焼けている部分が、調理などの際に火を焚いていた地床炉です。

住居跡の入り口部の脇には、貯蔵穴が設けられていました。



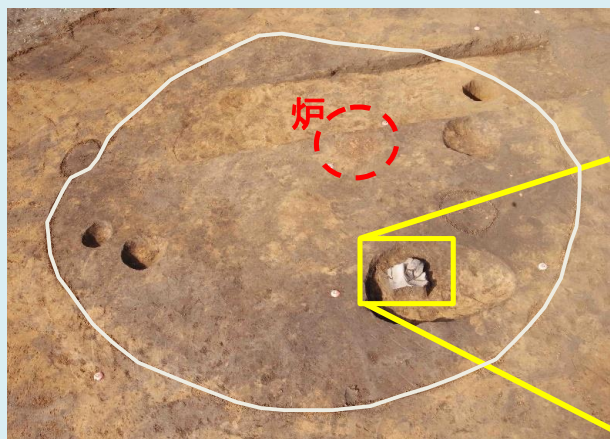
▲8Y・9Yの完掘状況

8Y・9Y(仮称)



▲8Yの完掘状況

重なり合う2軒の弥生時代の住居跡、8Y・9Y(仮称)は、どちらも今回の調査区内では一部分しか確認できませんでした。また、9Y(仮称)は住居の床面がローム層の上面とほぼ同じ高さであり、竪穴住居としての掘り込みはほとんど残っていません。



10Y(仮称)



10Y(仮称)もまた、竪穴住居としての掘り込みはほとんど残っていない住居跡です。また、まて見つかった土器には、調理の際にいたであろうコゲがこびりついていました。

▲10Yの完掘状況

発掘中の様子



11Y(仮称)



発掘前の状況



出土した土器

弥生時代の住居跡、11Y(仮称)では、掘り下げを開始しています。この住居跡は、もう1軒の弥生時代住居跡12Y(仮称)と重なり合っていました。このような場合は、より新しい住居跡から順に掘り下げっていきます。掘り下げの途中で、現代の御猪口のような小型の土器が出土しました。